



Heart Saving Project



認定特定非営利活動法人

ハートセービングプロジェクト

団体案内

2021年6月改定版

世界の子どもたちの、救える命を救いたい。

この世に誕生した命は、国境を超えて等しく貴重です。

にもかかわらず、生まれついた国の医療事情や経済状態のために失われていく小さな命。

すべてはできないけれども、何か自分たちにできることはないだろうか。

日本の小児循環器医師のこの問いから、ハートセービングプロジェクトの活動は始まりました。

今、モンゴル国の先天性心疾患のこどもたちを無償で治療する活動を行っています。

ボランティア活動資金を募集しております。ご協力をお願い申し上げます。



事業内容

NPO 法人ハートセービングプロジェクトは、日本の小児循環器領域を中心とする医師、看護師、臨床工学士などの医療スタッフは実施する、国際的な人道的医療活動を支援する非営利活動法人です。特定非営利活動法人の種類としては

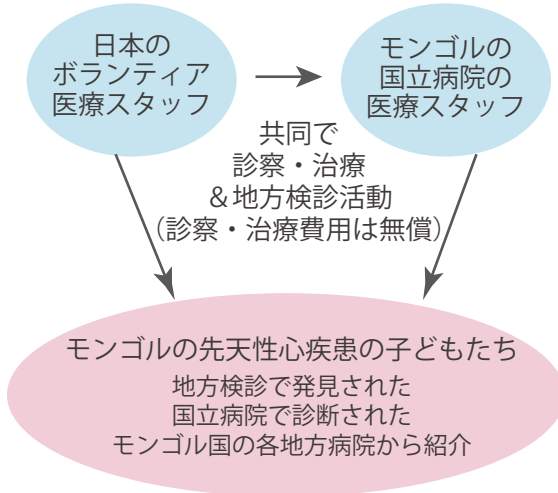
- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 国際協力の活動 です。

事業は、「日本国内で支援する事業」、「現地で支援する事業」、「広報する事業」を三本柱としています。又事業収益に寄与することを目的に、イベント事業、物品販売事業を「その他の事業」として実施できうことを定款で定めています。

現在、モンゴル国で現地医療関係者と共に、先天性心疾患のこどもたちを無償で診察し治療する活動を行っています。

活動内容

モンゴル渡航治療プロジェクトの概要



現在、モンゴル国とウズベキスタン国に置いて、日本の医療関係者が実施する医療ボランティア活動をバックアップしています。現在は、小児先天性心疾患の検診活動とそれを通じての現地の医師の教育、心カテーテル治療の現地医療関係者への指導・教育を行っています。2001年の活動開始から2019年末までで、のべ480名の小児循環器医師、小児科医師、麻酔科医師、心臓血管外科医師、看護師、医療系企業の社会人、医学生、通訳・事務局を含むボランティアスタッフが日本から活動に参加しました。現地では、現地病院の医師・技師・看護師などの医療関係者、現地NPO法人と共同で活動しています。医療の立ち遅れている国々では、知識や技術の不足と同時に、国の経済問題、人々の医療に対する理解不足、医薬品や医療器具の流通経路が確立していないことなど、多くの問題が山積しています。ひとつの目標を達成するとさらに次の課題が見つかる、というのが現状です。

モンゴルでの活動拠点

現在ウランバートル市内にある「モンゴル国立母子保健センター」を活動拠点としております。同病院はモンゴル国で唯一の周産期医療の総合病院です。モンゴルでは先天性心疾患の患者さんが18才を過ぎると成人を対象とした心臓外科病院である「国立第三病院」で治療を受けることになるため、この「国立第三病院」からの支援依頼を受けることもあります。地方検診は各県庁所在地にある県立中央病院を中心に実施しています。

(1) モンゴル国立母子保健センター

1930年創立。2011年現在、医師215名、看護師570名、スタッフ235名を抱えています。1日平均の入院患者は約90名、外来患者は約370名。全国から重症患者が紹介を受けて来院しています。全国の病院で先天性心疾患の疑いのある患児さんは県立病院から紹介を受けてこちらへ集まります。2014年11月、院内に「心臓カテーテル・血管造影室」が完成し、心カテーテルの技術修得が徐々に定着しつつありますが、中～重症の患者さんの治療はさらに今後のトレーニングが必要です。

(2) 地方検診

モンゴルの面積は日本の約4倍。所得の低い地方に住む家族には、首都まで子どもを連れて行き医者に診せることのできない親も多数います。こうした背景から、私たちが地方へ向かって患児さんを診る活動を行っています。県立病院には近年、心エコー装置の設置が進んでいますが、地方病院の医師たちは操作の指導を受けたことがなく、正確な診断ができていません。県立病院とその地域の地方の管轄職員には、私たちが訪問する日時に合わせて患者さんの来院を促すようなアクションをとってもらい、当日は持参したポータブル心エコー装置と現地のエコー機で診断しています。検診開始当初はエコー機による正しい診断がおもな目的でしたが、最近はエコー機の操作方法と診断方法の指導も大きな目的のひとつとなっています。



モンゴル国立母子保健センター



地方へ向かう検診班の車



地方検診で機材を搬入する様子

活動実績（1）首都ウランバートルでの診察・治療実績

日本から参加する医療スタッフは、日頃は日本全国の病院で勤務しており、活動参加時にモンゴルに集結します。2001年から2019年8月末までにモンゴル国立母子保健センターと提携して同病院で実施した心エコーによる精査はのべ3514例となりました。

モンゴルでは、我々の活動を支援してくれる現地NPOの協力があり、病院での受付や準備などを手伝ってくれています。

モンゴルでは活動開始時は国立第三病院、2015年からはモンゴル国立母子保健センターで心カテーテル治療を実施しており、2019年末まで676人の子どもたちが健康を回復しました。現在は現地の医療関係者への臨床教育にも力を注いでいます。現地の日本語モンゴル語の通訳者の協力を得て、モンゴル側医療スタッフを対象とした症例検討会や講義も実施しています。また、日本で行われる小児循環器学会へモンゴルの医師を招聘したり、日本の大学病院へ臨床修練医として受け入れるといった教育事業も積極的に行っています。その結果、モンゴル国立母子保健センターの小児循環器医師の診断レベルはここ数年で大変向上が見られます。カテ室でも、できる限り、第一術者、第二術者をモンゴルの医師に担っていただくようにし、日本の医師はそれをサポートする形をとっています。

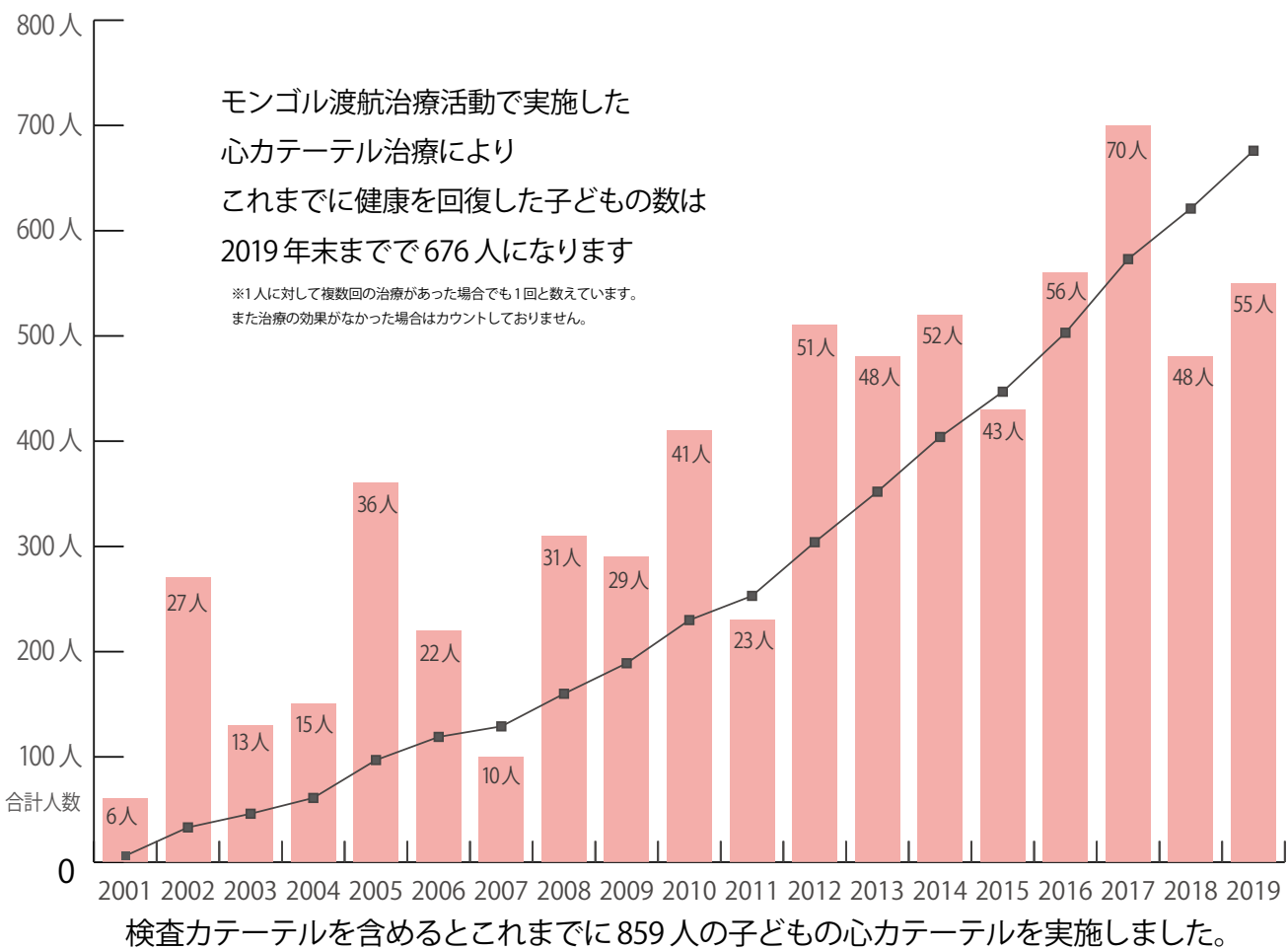
しかし、重症例は未だ自立して診断・治療することは難しく、現地医師らが学ぶべきことはまだまだたくさんあります。また、現地病院の人員問題、デバイスの流通の問題、院内に設置されている機器のメンテナンスなど、こちらから提言することはできても、実際には現地の病院の経営陣、ひいてはモンゴル国厚生省、保健省が解決すべき課題が山積しており、歯がゆい思いを感じています。



モンゴル国立母子保健センターに「カテ室」が完成。2019年末、外科手術を視野に



2015年3月ようやくモンゴル国立母子保健センター内に「心臓カテーテル・血管造影室」が完成しました。また、近い将来、手術室に人工心肺装置が配置されることも決定し、今後は外科手術も担うことも視野に入れて、循環器外科が設置されました。しかしそれが現実のものとなるのはまだ遠い先のことです。血管造影装置は2019年にメンテナンス不良のため作動が止まり、心カテーテル治療を行うことができない状況が発生しました。本来であれば定期的にメンテナンスすべき機器が術中に故障することは、あってはならないことです。心カテーテル治療については、ようやく2017年から心カテーテル治療の費用の一部が保険適用されることになりました。とはいえ、本人負担の25%分の金額を賄うことのできる家庭はごくわずかです。ハートセービングプロジェクトでは今後も私たちが費用負担をしながら治療活動を続けていきます。



モンゴルでの活動を支える現地 NPO 法人「ABB Zurkh Khamagaalakh」



モンゴルの NPO 法人「Zurkh Khamagaalkh Tusul」のメンバーの一部。

「Zurkh Khamagaalkh Tusul」とは「心臓を救う会」の意味です。日本のハートセービングプロジェクトの活動を口コミで知り、趣旨に賛同した人々が参加しています。私たちがモンゴルに渡航するタイミングに合わせて仕事を休み、渡航前の下準備から通訳業務までを担ってくれています。

現地での活動を支えてくれているのはモンゴルの NPO 法人

「Zurkh Khamagaalakh Tusul」(ズルフ ハマガラフトゥスル) (代表 Buyannemekh Oyuntuya) です。日本人がモンゴルで医療活動をするために必要な一時医療行為資格の取得手続き、使用する機材の持ち込みに関する非課税申請、使用する医療物資のモンゴル厚生省への届け出、現地調達が必要な医療物資の手配、日本のチームの空港での出迎え、移動手段の確保、食事の手配、現地での活動拠点である病院でのモンゴル語日本語の通訳、現地検診先の地方病院との事前打ち合わせなど、滞在時以外を含めてさまざまな業務を引き受けてくれています。彼らの支援があつてこそ、活動が順調にできていることは、日本から参加したメンバーがみな実感しています。活動に際して「外注費」を支給していますが、実際には支払額の数倍の業務をこなしてくれています。

2001年～2019年
モンゴル国への渡航治療活動に参加したスタッフの人員構成と
国立母子保健センターで実施した心エコー診断数

実施年月	日本側の人員構成	活動日数	心エコー診断数
2001年10月	小児循環器医師2、臨床工学士1	9日間	-
2002年8月	小児循環器医師6、一般外科医1、臨床工学士1	7日間	100人
2002年12月	小児循環器医師5、臨床工学士1	9日間	-
2003年10月	小児循環器医師8、小児科医1、臨床工学士1、看護師1、検査技師1	9日間	70人
2004年7月	小児循環器医師7、臨床工学士1、看護師1、研修医1、学生ボランティア2	8日間	80人
2005年7月末～8月初	小児循環器医師13、臨床工学士1、看護師1、検査技師1、学生ボランティア1、病院秘書2	9日間	130人
2006年8月	小児循環器医師13、臨床工学士1、看護師1、検査技師1、超音波検査士1、研修医1、事務局1	6日間	130人
2007年8月	小児循環器医師9、臨床工学士1、超音波検査士1、事務局1	6日間	125人
2008年8月	小児循環器医師16、看護師1、学生ボランティア3、事務局2	のべ14日間	165人
2009年9月	小児循環器医師7、事務局2	7日間	120人
2009年10月	小児循環器医師4、臨床工学士1、看護師1、事務局1	4日間	-
2010年10月	小児循環器医師9、臨床工学士1、看護師1、事務局1	7日間	208人
2010年12月	小児循環器医師5、看護師1、ME技師1、学生ボランティア1	4日間	72人
2011年11月	小児循環器医師7、麻酔科医師2、臨床工学士1、看護師1、事務局1	7日間	105人
2012年5月	小児循環器医師8、麻酔科医師2、臨床工学士1、看護師1、事務局1	7日間	125人
2012年11月	小児循環器医師8、麻酔科医師2、臨床工学士1、事務局1、学生ボランティア1	6日間	118人
2013年5月	小児循環器医師9、麻酔科医師3、臨床工学士1、事務局1	7日間	149人
2013年11月	小児循環器医師10、麻酔科医師3、臨床工学士1、看護師1、事務局1	8日間	166人
2014年5月	小児循環器医師7、麻酔科医師4、臨床工学士1、事務局1、ボランティア1	11日間	94人
2014年8月	小児循環器医師9、麻酔科医師3、臨床工学士1、看護師1、事務局1、監査1	4日間	164人
2015年5月	小児循環器医師7、麻酔科医師3、臨床工学士1、事務局1、記者1、学生ボランティア2	6日間	
2015年9月	小児循環器医師7、麻酔科医師2、看護師1、事務局1	1日間	50人
2015年11月	小児循環器医師7、麻酔科医師2、看護師1、事務局1	5日間	133人
2016年5月	小児循環器医師8、麻酔科医師2、臨床工学士1、看護師1、事務局1	3.5日間	135人
2016年11月	小児循環器医師5、事務局1	4日間	87人
2016年12月	小児循環器医師4、臨床工学士1、事務局1	6日間	60人
2017年5月	小児循環器医師7、麻酔科医師1、看護師1、事務局1	5日間	131人
2017年8月	小児循環器医師6、臨床工学士1、事務局1	4日間	101人
2017年11月	小児循環器医師4、麻酔科医師1、事務局1	4日間	91人
2017年12月	小児循環器医師5、臨床工学士1、事務局1	3日間	57人
2018年2月	小児循環器医師2、事務局1	2日間	3人
2018年5月	小児循環器医師7、臨床工学士1、事務局1	5日間	129人
2018年8月	小児循環器医師7、看護師2、事務局1	4日間	140人
2018年12月	小児循環器医師3、小児先天性心臓血管外科医師1、麻酔科医師1、臨床工学士1、事務局1、学生1	2日間	57人
2019年5月	小児循環器医師4、麻酔科医師1、事務局1、学生2	4日間	115人
2019年8月	小児循環器医師9、麻酔科医師1、看護師1、社会人1、学生3、事務局1、	3日間	104人
2019年11月	小児循環器医師5、事務局1、学生2	2日間	83人
2019年12月	小児循環器医師4、事務局1	2日間	20人

活動実績（２） 地方都市での検診



2003年から開始したモンゴル国での地方検診は、2015年末までに21県全県を巡り、2016年からは2周目に入っています。日本の約4倍の国土ですが、国内に鉄道網はなく、国内線飛行機の運行も限られているこの国でのおもな移動手段は自動車です。地方は首都に比べて現金収入の機会が少ない家庭が多く、病気が疑われる場合でもなかなか首都の総合病院を訪ねることができません。こうした背景の下に直接出向く地方検診を始めました。

構成は日本人医師3～4名、検査技師・看護師・医学生1～2名、スタッフ1名、国立母子保健センターから小児循環器医師1名と、現地で私たちをサポートしているNPO団体のメンバー2名、必要に応じて運転手が加わり、ポータブル心エコー診断装置を持参して各地へ向かいます。この地方検診により地方で見つかった患者さんの情報は同行の国立母子保健センターの医師を通じて共有できるため、その後のフォローも大変スムーズに行われています。



地方検診の実施場所は各県立中央病院で、以前から病状や聴診などにより循環器疾患が疑われるものの、それ以上の検査がされないままだった子どもたちを対象に検診しています。近年、海外からの支援などにより地方病院にも徐々に心エコー診断装置が設置されるようになってきました。しかし残念なことに、地方病院の医師たちはこうした機械を使つての診断経験がないため、機器が使用されずに放置されていたり、故障したままになっていたりをよく見かけます。私たちは地方検診の折に、現地の医師に心エコー診断装置の使い方や病状の診断などの指導も同時に行なっています。

各病院ではときには100人を超える患者さんとその家族が待っていて平均滞在時間1～2泊、実質活動時間10時間超で対応しています。病状によりその後の地方病院でのフォローの指示や首都ウランバートルの国立母子保健センターへの受診を勧め、治療方針や治療時期などをハートセービングプロジェクトのカテテル治療チームやその他の海外医療ボランティア団体に引き継ぎます。

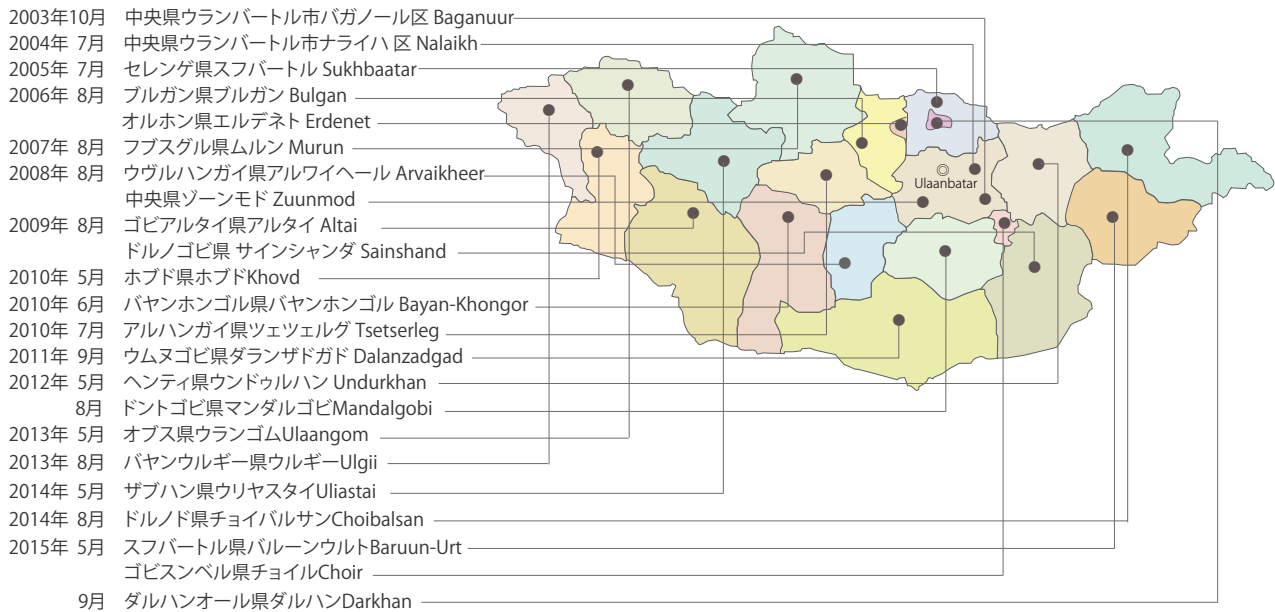


地方検診先では、地方のテレビ局に、事前に受診を促すニュースを放送してもらい、検診の場には取材に来てもらっています

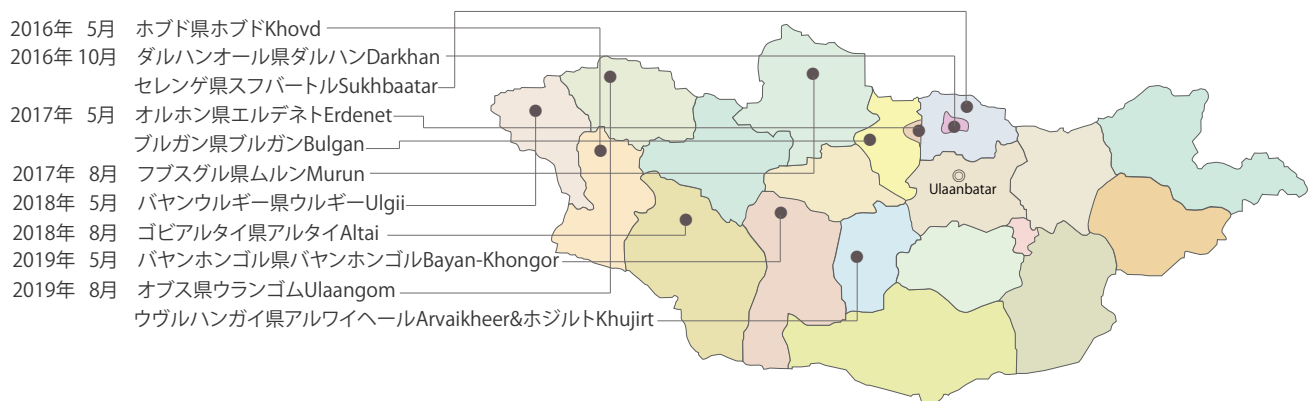
2003年～2019年
モンゴル国で実施した地方検診 参加者の構成と来院者数

場所	訪問年	人員構成（日本側スタッフ）	所要時間 (移動含む)	来院者数
中央県バガノール区	2003	小児循環器医師3、看護師1、臨床工学士1	1泊2日	70人
中央県ナライハ区	2004	小児循環器医師2、看護師1、学生ボランティア1	12時間	53人
セレンゲ県	2005	小児循環器医師2、研修医1、臨床工学士1、看護師1、超音波検査士1、事務局1	2泊3日	121人
ブルガン県	2006	小児循環器医師2、研修医1、臨床工学士1、看護師1、超音波検査士1、事務局1	2泊（移動泊）	57人
オルホン県エルデネト	2006	小児循環器医師2、研修医1、臨床工学士1、看護師1、超音波検査士1、事務局1	1泊2日	59人
フブスグル県ムルン	2007	小児循環器医師3、学生ボランティア1	4泊5日	94人
ウウルハンガイ県	2008	小児循環器医師2、看護師1、臨床工学士1、学生ボランティア3	2泊3日	64人
中央県ゾーンモド	2008	小児循環器医師2、看護師1、臨床工学士1、学生ボランティア3	20時間	21人
ゴビアルタイ県	2009	小児循環器医師2、看護師1、臨床工学士1、事務局1	2泊3日	66人
ドルノゴビ県	2009	小児循環器医師2、看護師4	2泊3日	93人
ホブド県	2009	小児循環器医師3、学生ボランティア1、事務局1	2泊3日	205人
バヤンホンゴル県	2010	小児循環器医師2、看護師2、事務局1	3泊4日	192人
アルハンガイ県	2010	小児循環器医師3、看護師1、事務局1、学生ボランティア1	3泊4日	178人
ウムヌゴビ県	2011	小児循環器医師4、臨床工学士1	2泊3日	120人
ヘンティ県	2012	小児循環器医師2、看護師1、臨床工学士1	2泊3日	111人
ドントゴビ県	2012	小児循環器医師3、研修医2、医療事務1	2泊3日	89人
オブス県	2013	小児循環器医師3、臨床工学士1	2泊3日	149人
バヤンウルギー県	2013	小児循環器医師3、臨床工学士1、看護師1、学生ボランティア1	2泊3日	100人
サブハン県	2014	小児循環器医師4、循環器内科医師1、臨床工学士1	2泊3日	124人
ドルノド県	2014	小児循環器医師4、看護師1、ボランティア1	2泊3日	198人
スフバートル県	2015	小児循環器医師3、循環器内科医師1、臨床工学士1、ジャーナリスト1	3泊4日	252人
ゴビスンベル県	2015	小児循環器医師2、循環器内科医師1、学生ボランティア2	1泊2日	197人
ダルハンオール県	2015	小児循環器医師3、看護師1、臨床工学士1、学生ボランティア1	2泊3日	201人
ホブド県	2016	小児循環器医師2、看護師1、臨床工学士1、学生ボランティア1	2泊3日	119人
ダルハンオール県	2016	小児循環器医師3、看護師1、事務局1、看護学生ボランティア1	半日	50人
セレンゲ県	2016	小児循環器医師3、看護師1、事務局1、看護学生ボランティア1	2泊3日	207人
オルホン県	2017	小児循環器医師2、看護師1、事務局1	2泊3日	84人
ブルガン県	2017	小児循環器医師2、看護師1、事務局1	2泊3日	126人
フブスグル県	2017	小児循環器医師3、臨床工学士1	2泊3日	207人
バヤンウルギー県	2018	小児循環器医師4、臨床工学士1	2泊3日	129人
ゴビアルタイ県	2018	小児循環器医師3、看護師1、社会人ボランティア1	2泊3日	125人
バヤンホンゴル県	2019	小児循環器医師3、学生ボランティア2	2泊3日	229人
オブス県	2019	小児循環器医師3、事務局1、社会人ボランティア3、学生ボランティア1	2泊3日	155人
ウウルハンガイ県	2019	小児循環器医師2、看護師1、学生ボランティア2	3泊4日	127人

2003年～2015年 モンゴル国で実施した地方検診先（1周目）



2016年～ モンゴル国で実施した地方検診先（2周目）



活動実績（3）ウズベキスタン国での診察・治療実績

ハートセービングプロジェクトのモンゴルでの活動を知ったウズベキスタン国タシケントにあるヴァヒドフ記念病院（ウズベキスタン国立外科病院）の外科医師からの依頼を受けて、2017年5月に初めて同国において活動を行いました。2019年末までに合計4回、1回につき医師2名が3泊5日の日程で訪問しています。

ウズベキスタン国はかつてのモンゴル国と同様、小児の心カテーテル治療を行うのは外科医で、小児循環器医は心カテーテル治療を行いません。

国民健康保険のシステムはなく、医療にかかる費用負担は患者さん自身が負います。しかし、ウズベキスタン国の一般市民の経済状態は決して余裕のあるものではなく、医療費を負担して治療を受けることができる人は少ないようです。一方で、医療器具の販売代理店は大変少なく、そのために余計にデバイスの価格が高くなっているという事情もあります。

ウズベキスタン国の外科医の技術レベルは比較的高く、成績も優秀です。ただ、小児の専門ではないため、診断レベル、治療方針の立て方など学ぶことがまだまだ多いように見受けられます。



ヴァヒドフ記念病院



2017年～2019年 ウズベキスタン国での心カテーテル治療内訳

訪問年月	人員構成 (日本側スタッフ)	活動日数 (移動含む)	治療カテーテル	治療の内訳	診断カテーテル
2017年5月	小児循環器医師2	3泊5日	3例	CoA1, ASD1, PDA1	—
2017年9月	小児循環器医師2	3泊5日	7例	PS1, CoA1, ASD1	2例
2018年5月	小児循環器医師2	3泊5日	16例	PDA16	—
2019年5月	小児循環器医師2	3泊5日	10例	ASD8, PDA2	2例 (TEE)

活動実績 (4) 中古救急車のモンゴルへの寄贈サポート



2012年10月10日神奈川県秦野市で行われた救急車授与式



2020年5月 ウランバートル市の新モンゴル日馬富士学園の広場で行われた救急車授与式

2012年から、ハートセービングプロジェクトの会員である横綱日馬富士関（ビヤムバドルジ氏）の提案で、日本の地方自治体から無償で譲り受けた救急車・消防車をモンゴル国内の公共団体へ寄贈する事業をサポートしています。

当初モンゴルで寄贈先を探していたところ、「モンゴルにも救急車はある」と言われたことがありましたが、それまで走っていたのは、中にストレッチャーを入れることができるだけの空っぽの大型車でした。日本の救急車は、モンゴルではその設備の充実度から「動く病院のようだ」と驚かれています。

この事業にかかる費用は、寄贈元の地方自治体と日馬富士関から紹介された寄付者の方々の負担で行われてきました。日馬富士関は2018年9月30日に行われた断髪式を持って引退されましたが、その後もこの事業の存続のために協力的に動いてくれています。



2021年4月 福井県大野市からモンゴルへ寄贈される救急車

2012年～ ハートセービングプロジェクトを通じてモンゴル国へ寄贈した救急車・消防車

寄贈元	寄贈先	車種台数	日本での贈呈式
神奈川県厚木市	モンゴル国立母子保健センター	救急車1台	2012年4月5日
神奈川県厚木市	モンゴル国非常事態庁	消防車1台	2012年4月5日
神奈川県秦野市	ダルハン市第一病院	救急車1台	2012年10月10日
福井県鯖江市	モンゴル国ウランバートル市検察大学	消防車1台	2013年2月27日
兵庫県姫路市	ウランバートル市第三産科病院	救急車2台	2013年4月1日
福井県鯖江市	モンゴル国立第三病院	救急車1台	2013年4月25日
神奈川県秦野市	ウランバートル市第二産科病院	救急車1台	2014年10月17日
広島県江田島市	ゴビアルタイ県総合病院	救急車1台	2014年11月24日
広島県江田島市	モンゴル国非常事態庁ゴビアルタイ署	消防車1台	2014年11月24日
福井県鯖江市	アルハンガイ県ハンガイ村病院	救急車1台	2015年3月8日
福井県鯖江市	ウウルハンガイ県立中央病院	救急車1台	2016年2月27日
広島県広島市	ウランバートル市軍事病院	救急車1台	2016年3月29日
広島県広島市	ウランバートル市ソングンハイラルハン区病院	救急車1台	2016年3月29日
兵庫県赤穂市	オグス県立中央病院	救急車1台	(国内贈呈式なし)
広島県広島市	セレンゲ県立中央病院	救急車1台	2017年3月28日
広島県広島市	トップ県バットスムベル村病院	救急車1台	2017年3月28日
広島県広島市	ブルガン県グルバンプラグ村病院	救急車1台	(国内贈呈式なし) 2019年2月11日UBにて
広島県広島市	ウウルハンガイ県ハラホリン村病院	救急車1台	(国内贈呈式なし) 2019年2月11日UBにて
広島県広島市	ドルノド県ダシバルバル村病院	救急車1台	2020年3月2日
広島県広島市	ウランバートル市ハンウール区医療センター	救急車1台	2020年3月2日
福井県大野市	ゴビアルタイ県チャンドマニ村病院	救急車1台	2021年5月予定
広島県広島市		救急車1台	

活動資金

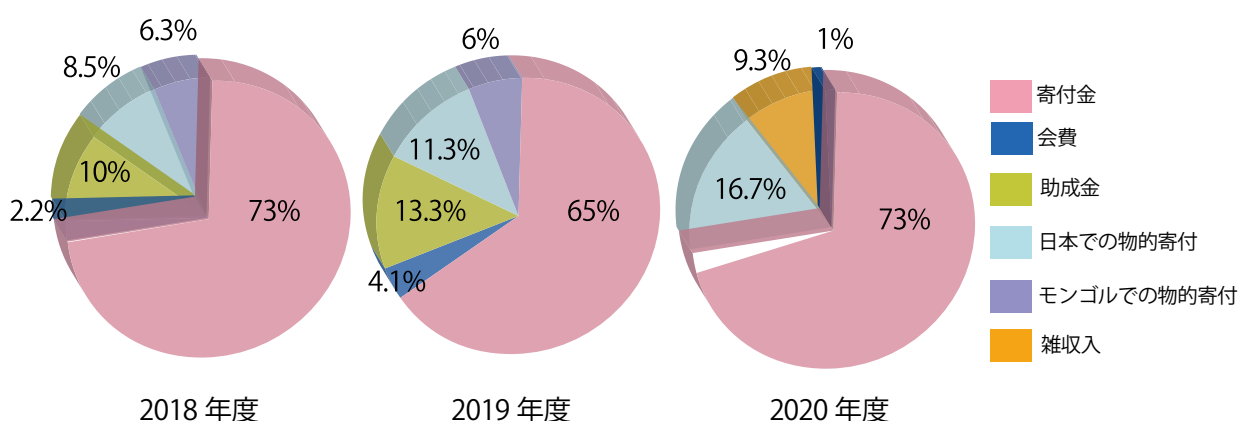
主な活動資金は、活動会員からの会費・寄付金と、活動を支援して下さるみなさまからの会費・寄付金です。2021 年期初時点での会員総数は 112 名です。会費は 5000 円一口（一口以上、一年ごとの更新）の年会費、寄付金は金額を問わず受け付けております。また、個人の方々だけでなく、法人様、団体様のご寄付も大歓迎です。

ハートセービングプロジェクトは 2015 年 4 月 27 日より、登録管轄の東京都より認定特定非営利活動法人として認可されました。これにより、ご寄付をくださる皆様は税制の優遇を受けることができるようになりました。

ハートセービングプロジェクトの人道的医療活動を支えるのは、皆様からの善意のご寄付です。ご理解とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



年度別収益の内訳



過去 8 年の事業費に対する管理費の割合

事業年度	経常支出額 (単位：万円)	事業費合計額 (単位：万円)	管理費合計額 (単位：万円)	経常支出に対する 管理費の割合
2013 年度	1664 万円	1554 万円	110 万円	6.6%
2014 年度	1649 万円	1558 万円	90 万円	5.4%
2015 年度	1618 万円	1525 万円	92 万円	5.6%
2016 年度	1427 万円	1336 万円	90 万円	6.3%
2017 年度	1335 万円	1241 万円	94 万円	7%
2018 年度	1464 万円	1377 万円	87 万円	5.9%
2019 年度	1195 万円	1105 万円	89 万円	7%
2020 年度	188 万円	100 万円	88 万円	46%

法人 DATA

法人名 特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクト
所在地 〒154-0002
東京都世田谷区下馬一丁目 29 番 5 号 ウィンヒル下馬 102
電話番号 03 (3487) 9006
ファクシミリ 03 (3487) 6024
設立年月日 平成 20 年 (2008 年) 9 月 5 日

運 営 メ ン バ ー

理 事 長



富田 英 (昭和大学特任教授 小児循環器・
成人先天性心疾患センターセンター長)

副 理 事 長



檜垣 高史 (愛媛大学大学院
医学系研究科地域小児周産期学
講座 教授)

前理事長兼
理事
(永世理事長)



羽根田 紀幸
(どれみクリニック小児科・
島根大学医学部臨床教授)

理 事



田村真通 (秋田赤十字
病院 副院長 (兼) 総合診療科部長
(兼) 第一小児科部長)

理 事



片岡 功一 (広島市立広島市民
病院循環器小児科部長)

理 事



宇佐美 博幸 (写真家)

事務局長

理 事



藤井 園子 (愛媛大学大学院
医学系研究科 麻酔・周産期学講座 助教)

理 事



谷口 智子 (札幌医医科大学
附属病院 看護師)

監 事



吉田 起男 (吉田起男
税理士事務所 税理士)

公 式 H P 銀 行 口 座

<http://heartsaving.org/>

三菱東京 UFJ 銀行 祐天寺支店 普通預金 5095873
名義=特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクト

ゆうちょ銀行 店番018 普通預金 7481249
名義=トクヒ) ハートセービングプロジェクト

※郵便局 払込取扱票でのご入金の場合

口座記号番号= 00160-2-546241

加入者名= NPO 法人ハートセービングプロジェクト

写真で見る 20 年の軌跡

2001年 初の渡航から 2005年まで



2006年



2007年



2008年



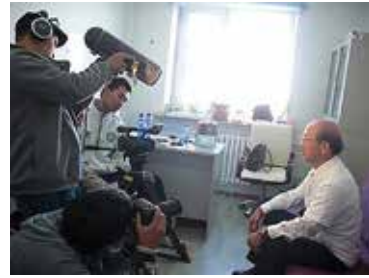
2009年



2010年



2011年



2012年



2013年



2014年



2015年



2016年



2017年



2019年



■ 沿革

2001(平成13)年10月	島根医科大学(現島根大学医学部)小児科助教授であった羽根田紀幸(当団体の発起人)がモンゴル国の留学生からモンゴル国での小児循環器治療の現状を聞き、渡航治療を決意、小児循環器医師黒江兼司氏、株式会社カワニシの臨床工学士矢野宏氏の3名で医療団を結成し、渡航治療を実施した。これが、モンゴル国初の小児カテーテル治療例となる
2001(平成13)年10月	島根医科大学の研究支援機関であった財団法人島根難病研究所(現公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根)より「公益性の高い国際医療ボランティア」として2011年6月30日までの期限付きプロジェクトの認定を受ける
2002(平成14)年	2008年まで年1回のペースでモンゴル国渡航治療活動を実施
2006(平成18)年3月	理事長羽根田紀幸がモンゴル国より「北極星勲章」を受賞
2007(平成19)年10月	事務局長事務局長佐美博幸がモンゴル国より「北極星勲章」を受賞
2008(平成20)年	この年より現地医療関係者への教育的観点から年複数の活動を決定。この年は7月から10月までに年間4班が活動
2008(平成20)年9月	特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクトを設立
2009(平成21)年11月	副理事長(当時)富田英がモンゴル国より「北極星勲章」を受賞、当団体にて複数回のボランティア活動を行ったメンバー7名がモンゴル国厚生大臣賞を受賞
2010(平成22)年	5月から12月までに年間5班がモンゴル国で活動
2011(平成23)年11月	3月に発生した東日本大震災の影響で活動中止が危ぶまれたが、かろうじて1回の渡航を実現
2012(平成24)年	理事(当時)檜垣高史がモンゴル国より「北極星勲章」を受賞、当団体にて複数回のボランティア活動を行ったメンバー8名が「ナイラムダル友好勲章」を受賞
2013(平成25)年6月	理事長羽根田紀幸がモンゴル国での活動拠点のひとつであるモンゴル国立母子保健センターの名誉教授となる
2013(平成25)年7月	これまでの活動が評価され、日本国外務省より外務大臣賞を受賞
2015(平成27)年4月	平成27年4月27日付で東京都より「認定NPO」として認定される モンゴル渡航治療活動で、活動開始からの診断カテーテルを含めた心カテーテル術数が通算で500例の節目を数える
2016(平成28)年12月	モンゴルでの活動開始から数えて治療カテーテル・診断カテーテル合計600例の節目を迎える
2017(平成29)年5月	初めてウズベキスタン国のヴァヒドフ記念外科病院を訪れて現地医師と共に心カテーテル治療を行う モンゴルでの地方検診で全県を制覇。2周目に入る
2018(平成30)年7月	小児循環器学会の団体ブースに出展し団体活動を紹介
2019(令和元)年5月	モンゴルでの活動開始から数えて治療カテーテル・診断カテーテル合計800例の節目を迎える
2020(令和2)年11月	モンゴルの国立母子保健センターとオンラインで繋いでの治療活動を実施
2021(令和3)年10月	活動開始から20年の節目を迎える